うちちがい物語

ヘ12
4108
1

門へ12
4108
巻1

世に宇治大納言物語といふ物あり。氏大納言
は隆國といふ人なり。西宴殿の孫俊賢
大納言乃第二の男なり。年あつまりて
いとまなきをとゝびていとゆゑ有人
月まのでは平等院一切經蔵乃南の山きは
より南泉房といふ所に引こもられをり。
さて宇治大納言といきて参りたゞをを
ゆゝしうけておのづから姿りてむしろを

文政十三年一月十日寄
名家蔵書印
門へ利用
4108
巻1-15
へ12
4108
1-15

るにしきてもぐみかもぐめて大あるう
ちは紙をてあめぐせなどして往来の箱
をうきの屋しきをいとずよびあつめむ
物語をせる聞くに我のそうちにうれのゆしく
かくるる事ごのしてかわきなる双紙よかく
きをの天ちぐれ事もあるも大唐乃ものも
あれの自本れ事もあわうれうちにゆう
と紀こともあり伝のそれるる事もありきこ

なるき事もあり。かくいろ〳〵物語をあり和ロ
まることもあるとさ海く伝くあり世の人これ
ををうしみる十六帖あり乃巻本の伝こ
きりて伊尾後貞といれし人のををにそ
あるとけるいりかなすりに書るあらはよさう
しき人くかきつまるあひぐ物語かほ
くふまれ大納言ようりのうれ事うき入
ある本をあるにてそさふなどにいまれ世

又物語りあさいまるいできて生り大
納言は拾遺物語をもれくぬ
うつろ乃後は事おどかさあつはんとるあくべ
し名を宇治拾遺乃物語といふ宇治う
のこまゆをれろふとはきてるるや又後を
拾遺といへで宇治拾遺物語りといへふみ
やあ別ものなりめるしたがはあるなす

宇治拾遺物語巻第一目録

一 道命阿闍梨和泉式部之許讀經五条后
祖神聽耳事
二 丹波国篠村平茸生事
三 鬼にものゝ事
四 侍大納言事
五 随求陀羅尼竜額法師事
六 中納言師時法師乃玉茎検知事

七 鹿門聖鹿にて欲替事
八 易乃うらなひ金を出事
九 宇治殺害させ給て賀茂僧正法者に
先さ海く事
十 秦兼久向通後鄉弁惡口事
十一 源大納言雅俊一生不犯食ぐせ事
十二 児乃の餅を盗寢事
十三 田舍ものちご様乃ちからと見てあく事
十四 小蔵左衛門にかくさるる事
十五 大童子鮭ねぬる事
十六 尼地蔵乃尺をしてまろる事
十七 假行者逢二百鬼夜行事
十八 利仁將軍頭粥事

宇治拾遺物語惣目錄

卷第一

序
道命阿闍梨和泉式部之許讀經事
石祖神聽風事
丹波國篠村平茸生事
鬼仁あふとらぬ事
伴大納言事

佐藤藏書

隨求陁羅尼竜額法師事
中納言師時卿乃至検知の事
鈴門陸鹿よかうんとも事
易乃うゝ玉して金とりかへる事
宮治敏倒させ治て實相房僧正弟者
よ先さえた事
秦兼久向通後郷行悪口事
源大納言雅俊一生不犯金うるせる事

児乃ういもちゐをあうしねりしる事
田舎のちごさうれちる後乃人々泣事
小萩太夫乃おどされ事
大童子鮭ぬすみたる事
尼ちごさうり見せてまつる事
ちゑもさやうじや百鬼夜行よあ事
利仁暑預粥事

巻第二

清徳聖きごく乃事
静覚僧正行願清瀧事
同僧正大嶽乃岩いのりしる事
金峯山落蒲打事
用経あらまうさの事
原行死人をかしもとしぶす事
鼻長僧事
賜物封蔵人少将事
李通欲逢狭事
稽喜合保昌事
明衡欲逢狭事
唐卒於婆羅付事
ちりゐ強力のしる世あり事
柿木に佛現ずる事

巻第三

大太郎ぬすびとの事

菊大納言忠家牧尾事
小式部内侍定頼卿乃袖をとめてたる事
山伏あをといのりかへる事
香炉僧正と國俊戯事
給師長秀家の車くるまをみて恨事
鹿乃見れそりくもる事
樵夫うそ乃事
伯母事

同人佛事乃事
菊六事
多田新發意所示事
国情を別當地蔵作事
伏見修理大夫俊綱事
武門方司女葬送附孝処事
雀報恩事
小野篁廣才事

平貞文本院侍従ホ事
一条摂政歌事
孤ある犬ほくろ事

巻第四

きつね人よほきて志とぎ食事
佐渡ホ仏ホ金事
薬師寺別当事
妹背嶋事
石むろ乃下ほくらあるもの事
東小院菩薩講夜事
三河入乃道世ゝ風事
進命婦清水詣事
葉遠鈴乃薬生事
鳩昌忠恒ホ事
仏朱雀院丈六佛奉作給事
式部大輔宴重茂卿正躰拝見事

智海法師癩人法讀事
白河院御寢の夢物をそれ在所事
永超僧都奥食事
了延房よ賣因自湖水中法文の事
慈恵僧正戒壇くづき たる事

卷第五

宋河原地蔵事
伏見修理大夫敦実人たゞむる事

以長物忌の事
範久阿闍梨西方をうたのせざる事
陪從家綱兄弟者かひなき欺くめる事
陪從清仲事
かゝる暦あつらへたる事
實方朝臣あるべき人實方朝臣よりたる事
御室戸僧正事
井一条寺僧正事

或僧人の許へ行て物奥ゆきみてゐる事
仲胤僧都地獄現説法の事
大二条殿へ小式部内侍を歌讀ませ事
山横川堂舎地形の事

巻第六

廣貴依妻訴夫魔王宴へめされて事
世そる寺へ死人をもちてゆくす事
留志者事

清水寺に二千度参詣者打入双六事
観音經化鮎人をくゆる事
賀茂の社へ行幣紙米不行事
志賀の寺の聖の湯を観音沐浴事
帽子児と孔子問答事
僧伽多羅剣を吞事

巻第七

五色鹿乃事

播磨守為豪佐多事
三条中納言水級事
検非違使忠明事
長谷寺参籠男利生よあづかる事
小野宮大饗事 付西宮殿冨小路大臣
小大饗事
式成源満則貞小三人被滝口弓藝事

巻第八

大膳大夫長谷部事
下野武正大風毎日参詣性空殿事
信濃守死事
敏行朝臣事
東大寺花厳会事
猟師佛と射事
千手院僧正仙人よある事

巻第九

滝口道則習術事
寶志和尚乾乃事
越前敦賀女現者助好事
くしけづかを供養せ事
法ねまさう郎示佛く屋うせ事
欲ふかく被免罪事
大安寺別当女ゝ嫁せる男養見事
博奕打聟入の事

巻第十

伴大納言應天門焼屋く事
放鷹樂の選ゝ是李りるゝ物事
堀川院の選ゝ笛ふきせ給事
浄蔵ゝ八坂坊ゝ強盗入事
そらを飛のきるさゝゆゝぐ事
吾嬬人止生贄事
豊前ゝ国事

義人死事
小槻當平事
海賊發心出家乃事

卷第十一

あを法ね乃事
保昇盗人なる事
晴明を仏見る僧の事付晴明殺蛙事
河内守頼信平忠恒をせむる事
白川法皇水面受領の下ると夢乃事
義人得業猿澤池竜ノ事
清水寺御帳給ふ女乃事
則光盗人をきる事
宣入水し給る僧乃事
日蓮上人吉野山にて逢鬼事
丹後守保昌下向乃時経文逢事
出家功徳事

卷第十二

達磨見天竺僧行事
提婆菩薩衆彫樹ざうの浮事
慈恵僧正死引受戒之日事
内記上人破法師陰陽師紙冠事
持経者觳實効験事
空也上人臂觀音院僧正祈直事
増賀上人衆三条宮振舞事

聖寶僧正汲一条大路事
穀断聖不實露顕事
季直中將歌乃事
樵夫小童隠題奇讀事
ある忠信の讀書事
法ゝゆきの犬事
あづまの人の乃事
河原院の融の霊恒事

八歳童孔子と問答の事
鄭太尉事
貪俗現佛性冨事
宗行郎ホ射虎事
遣唐使子彼食虎事
或上達部中将之時逢召人事
陽成院ゑを拙の事
水垂流殿むさびの事

一条桟敷屋鬼乃事

巻第十三

上緒主得金事
元輔落るの事
後宣迷神のあ事
亀と買てそれを事
蛇買人乃事
大升光遠妹強力事

或唐人女乃ひつぢにむまれる後ちゝ
してあわせる事
出雲寺別當此鱠ようちたるを喰ふ
かゝちゝして食事
念佛僧魔往生事
慈覺大師入纈城事
波天僧入穴事
寂照上人死鉢事

清滝川聖乃事
優婆塞多々羅事
巻第十四
海雲比丘尼童女事
寛朝僧正の事
經教くらうそにある事
魚養乃事
新羅國后金榻事

珠のあらそひ先量の事
小面女新使六事
仲綱僧を連歌事
大将慎事
佛堂開白法大時明等きざみ事
る階俊平げ身入乃笠下術事

巻第十五

清見原天皇与大友皇子合戦乃事
頼時の胡人見事
賀茂祭乃ひ武士行列事
門部府生海賊射返す事
土佐判官代通信人遠ちて関白殿り
合事
極楽寺僧施仁王経事
伊良縁野世恒眺沙門法下文の事
相應和尚上都卒夫事付深敬石奉

佐藤藏書

新事
仁戒上人往生乃事
秦始皇自天竺来僧禁獄事
後乃千金の事
盗跖と孔子問答乃事

今ハもうし遣命門徒ハ傳教乃ゟ法
ゟ事ハ出る僧あり事ハ和泉式部かゝれ事ハ経
をめ、さくらみ事ハ
ゆ、めりけるゟ目さめ
凡事ハ法ゟ仁八事ハ
んとゟ事ハ人の事ハ
事ハとゝ凡事ハ
いかゝ事ハゟ人事ハ
いゝ事ハ法ゟ事ハ
乃事ハ世ゟ事ハ
経ゟ事ハ

あはれしもいそかぬく我といはれ帝釈ハ又余所に行べく
清きまてしるへさハ世尊を始め梵天帝尺などをうじやん
しめまつりて聴せ給ふに一しほ揚給へえおそれなどへちが
侍きさる事てうきまよたふれもよびハえんよきれ
又まれ紛水をハかそてしるべくもてさつて世尊へ梵天
帝尺もほ聴かすれもねぬめりて物されさきり
しくうを生じさせてる事でさうてハぬなふたと乃はまれをさ
なくハあかりと此生をまハ帝釈ハえ道へはすれくさハうみ
まへるとも紀なくてこの身まてまいるを紀さをなり念
仏読経の威儀をたゞする事とゆるれと恵心乃僧房を
つまし紀行よとて

ゐまを今はむかし舟渡の藤の村といふところに年比年
華屋あるあるじをあくまかりの里村乃里といふ
ものとしつゝ人のまゐらざりしかどもこれをもてあそ
びとしてもぐ法師どもにかの里よりとりてもあるを
もてなく華屋のあるじかの法師どももれ二三十
人ばかりいとく老てやがてべきまゐくいれまゐ
ゐとりとりあつまりこの法師ばらはこれをえつゝ
ひらくまゐくいたるあるじこのさとの御僧はまゐ
へまかりのあんじまゐるとれば川はあるまゐにてまゐ
まゐとのうしをやさぐもとれをれをとのうしをも
まりといふとまゐくだられど法きてまゐけるとうと

華屋のやれどにてまゐ法ばかりどにてまゐ
こと乃里のまゐくまりとまゐおまゐ同御はまかれまゐ
ばまゐまゐまゐまゐねざまゐ次乃とまゐ九十月のまゐまゐ
れまゐれまゐくいまゐまゐ法ばまゐまゐまゐまゐ入まゐ
ゐにまゐまゐ流まゐまゐまゐまゐまゐまゐまゐまゐ
者過ゐまゐまゐまゐまゐ故仲瀧僧まゐまゐ説法まゐまゐ
ゐまゐ人ゐまゐまゐまゐまゐまゐまゐまゐまゐまゐ
法まゐまゐ法師平華ゐまゐまゐまゐまゐまゐまゐ不淨説
の行ばまゐまゐまゐまゐまゐまゐまゐまゐまゐまゐ
まゐまゐまゐまゐまゐまゐまゐまゐまゐまゐまゐ
まゐまゐまゐまゐまゐまゐまゐまゐまゐまゐまゐ

ありもとゝ大りゝ山へ切ぬ風もてゝこゝてゝ海よりさよ
もゝで山乃中にて切よりもあゝだとゆりぬ又本ゝるとをれ
るゝとをりゝるゝ海しさもべきゝゝ所ゝ木乃ゝ切れ
けるゝよゝれ入ゝく自ゝもあゝだゝ海ゝて方ゝ海どに
ゝゝ海ゝ人の毒切ゝくしてゝゝめ切ゝるゝをゝに
ゝにを山乃中にゝゝで切ゝゝゝ海ゝ乃をゝこれ乃し
きれゝゝゝゝゝゝゝ海ゝゝゝゝゝ大ゝる
海ゝゝゝ海ゝゝゝる切どもゝゝゝゝゝゝゝ切をゝき
ゝ海きゝ色ゝゝゝあゝゝ切ゝゝゝゝゝ切よゝゝゝゝ
月一ゝゝゝのゝゝ口ゝゝゝ切ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
よゝゝゝゝ切どゝ百人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

てゝ乃ゝ切ゝゝゝゝて切ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
よゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ鬼ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

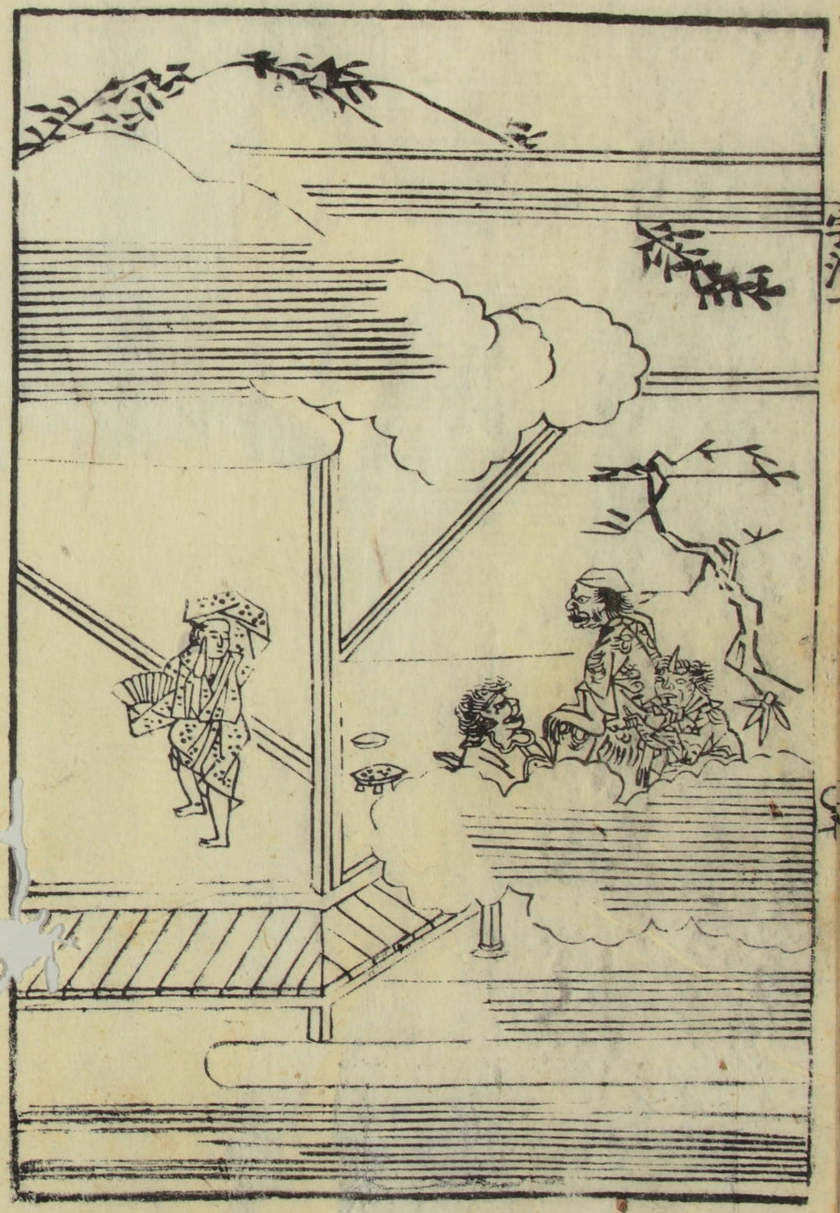
ぜうとて、舞ひくゐ入ぬ。ぬきあしにて、ものをあらくふみてくるまの音
あり。あやしきほどにて、ものをあけたれば、ものの姿、人にあらず。
鬼のつよげなるが、ものをおしあけて、ものをとりてくるまにのりぬ。
くるまをしやり出だしてやりつれば、ものをとりて、くるまにのりぬ。
ものをとりて、くるまにのりぬ。
ものをとりて、くるまにのりぬ。

ぢうまつりいそんといふこと庭乃鬼いうぢうろくもう
かるうばさうるべきこるうとして奥乃庭のこゝ毒にゆうち
鬼こゝの毒ハうくいやいへどもさいうねおとこゆうんぞ
らんたかしゝ毒ちをやうう海毒くいらんといふこと
毒乃鬼ちうる毒しくといれくぢてをうとる毒きこ
とたのくいれさこすふよとこ庭乃鬼のいふ毒う。
かゝのかきれうつうにあるまふをやうるべきこゝぶいるく
れものあまきハうまきうやゆうこれをふうんといふう。
ゆかきれうつふ毒うぢ毒ぢれをばゆんたゆもこゝまぬハ
ゆうう治いそんとうはちをもていたのぢゆゆへなく先ん
さまこまてちれきさをとにいそんといへどよこ庭の鬼ぢう

ぢうしこゝ地ちうう毒ぢ毒べしといへ鬼ちうてさ
ハをるでとて稲ちてゆくうよちうこれをちうこゝさて毒ちう
ぢこゝ乃毒ぢの法あうれいよさいうべしとて暁よちる鬼ぢふ
ゆねまぢく鬼どもうてうねおきれうゆさく海よ年ゆ
あうとうこゝぶあうとゆうくいれ乃ぢうる毒うよ
法毒くおううまこゝまハ木こうんおをもをれくい毒
ようてうね書乃うぢあうぢいうゆうう法ちうこゝぶ
ちうくとゆくうふあくこ海ゆ地事うれとゆをうにある
ゆきれたうれうよたちうることぬあるけるゆこ乃ゆきれ
こゝ乃うゆ毒ちる法こうていうてゆいうけてゆいへうゆ
法毒ちるぢゆづこけうふ醫師乃ちとや毒ちるゆ毒

よ法こ行へこ乃ちぶそうんといれきれだおまこ六す
しの乃ちしこ法にもあくしぶ法ろく乃事ありて鬼
れそるしそるるうといれきれだ氣ろれ定まりて
そうんとておとれ沢弟(ぢ)をこ法うよそれそれだをしへ法
こ乃おそ肌ひまくにてろ乃れろうかにへく
まちきれだ法こそにきくを聞にて鬼ぞきぞぞき
ろりおまそろて酒のこおろうばくば法しにれ肌
へまいるしそるかといれきれだ乃ちき肌おそ法しと
思れまぶしゆるぎ出れだ鬼どもまにておそ肌さう
くのとり世ばようこ屋乃鬼ちちさいまとくまへて
思ぞぞ紀乃ぬそれろしい天骨(ろ)法く法く肌

ぶくそろしきれだぶこと屋乃鬼これ世れ法く法く事
そるしぬきくしぶ法しそれろそそうしそちろ乃ちぶ
屋一世ばといれそれだそそ鬼法ろくそろそ鬼いて法く
思ちれちぶりへしそぶそそいまおぶくそ乃ろれて法
きそ法いきそしうやきぶろうへよあぶ法きそるおそ肌
よこそそおるそそろそれきそ乃そろ屋そはせまぶ
紀ちおそりそろ



出まとをいまもむかし。伊勢大納言の子吾男と佐渡の郡司の後者たる。飛國りて吾男を養ひて西大寺と東大寺とに詣まゐ。ある時よこ乃ゝとあめふりぬ。ものとりて人さく養ひし女きんぢら先とあそぶよりふて吾男ばかり泣きてよりて乃郡司の家へ行むかふ。郡司の家にて泣くこと。ひころ日来いさもせぬ。相人也くるぶるとしてむかふくめしのがせられば。吾男あやしをとをのして乃ほとて書れいれ法ふ。屋うにまて二風ごさうんぢる屋ゝむとわうれ思ほどに。

新元ごいとく法師とて、ものしきる相乃義入とく者り、それ
ようれきく人のおもうて、をるとおあしたいをしいてをるも
おとつで、ものこをかくあるんぞとて、をつかはあれぐ者
男ほりよりきて、上京して、大納云てくるさまどもを、
聽をとうあるる新元の親りよりをつぐをん
おまをるいまいむう人のものとてゆくをくをとくしき
負斧かくう貝腰よりをを鍛冶をかどしをくを山伏の
おもくしを所る入まて、伯乃之蔵入内のか庵てをちち
をくる伯あまいのうかをれ房ぞとをれをんぞおまこい
日伯白山よ伯つるぐ人をけへをいつをて、ほ二千日ひをん
と仕いつるぐをを死をうきて伯ちはうありをんとを

あを行人といのをくをて、をるをを、ぐ額をあ乃あひくこの
ほどにかをうきをくにをるをて、二をんだをりきをすあり、ま
をどかまいをうをてありをを、をを伯をくいを所ををを、
ひをあいの乃きぐをいをかをる事をとをあ山部いをを、
くをくをあを、をあ、をて、いを人をを、ぐをを、を伯乃を
をんをあるぐをとをを、を伯乃を、を随求陀羅尼をを
伯を、是よを指ぐをきをを、をを乃をを、ををををを
をぶれをく陀羅尼を先をを、ををるを、をを、をを、額
いをあをいをるほをを、をを、ををををを、をを、をを
をを、をををを、をを、をを七八をををを、をを、をを
をを、をを、をを、をを、をを、随求陀羅尼をを、をを

ゞ家乃おうひんゞにあるいもゞの素絹を拵ろうへていもと
ゝ年乃友つゝ年ゝ年ゝ有るゝ男乃
いもゝゝりあれゝゝ物もゝもあへどゝ
ゝ西へゝゝ冠者ゞ家乃中へほどゝて追ひめゝ
てさの法へゝて額をとうちゝゝゝゝ冠者
もゝゝゝとゝゝ有るゝほゝとゝもきゝて御ゝゝゝゞ
かゝ紙をれゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ

はつきあをてこれまでいまだとけぬ所ありのこりあるを
刻をぐりあるいはそこにまきぬ所とうかしこれ行ぶこと
志をにそこるしるあるはくろかれおとの所にはぐてくやや
あるこしまび行へぐ信二三人ぐできくるとこ中納云ろれ法
師刻さそれとへ行へぐ刻ぐつまのをしてあるる仏
ゆてこるくいたをしく行へといはくあそれ出るあるを
しき物してあをうちをうちる刻ろをてを物ねあり者る法
中紙云あをひきを刻紙をよものこまへぐ二三人ろてて
引刻ぬげぬぐてお信乃十二三ろうけくるある法めし
ぐくあ乃法しのまくこのうへをる法もろをてあげを
法しまをとを行へぐろれまくにあくらる刻るる そ

あをれろくまをするとだるとあくるほどにこの度まあ
しをしていまもそこおもせどいれをふる中納云
よをにもうにくあり者ぐさをれくまくくとあるけれ
ぬ度さ海あくくいまはさてしいふをあやふくくう
さをろしあせけるほどに毛乃中しろ松ぐあをの
ゆろをこるなるを乃くあるくとぐできくてこしにはい
くとうち法ををる中納云をぐめてそこら法ど
ひくる物ぐをも法あるよくろ物度をに法ろて
あくまを法ひをろ刻をるとだ屋う海めやる物ををこ
乃あくろへ刻物ろへいまくてうをひくて毛をとり法
をくてさろををぬくを法へくへをあるて物紙こそんと

出るとあるなり。狐惑乃法師とてあるける
大和てふ所に弱門といふ所あり屋あるを家をみける所
なれ名をして弱門乃屋とぞいへれをるうれしぐつとれ
しく出るなりをるをることれあをくれをくをあるし
をるふてとぞそてとりふおとなる出をるをいとうてう
うとける夜照射よ出よ者り。廉をを光あるを
をほどに目玉あをを出をりをを光あるを
てをるまをるくするにあーた目玉あをせをあり
矢沈よ廉ーしてほぐしにうをて矢ををぎて
いんとてちあると出をてみるに乃廉の目れあいの
きいの廉ゝ目のあををちかくて目乃をを

かをるを出るとをれがあ屋ーとおもひをく弓玉乃さー
てうくゝん者るをあを玉あやーかりをれで矢玉を
ぶーて矢玉乃をてみるに廉乃目ゝねあーぬるりを
ゝとみくゝかをがれをさをとりをくちかくまを
よをてをれで牙ハ一ちやうゝ乃草ゝてあり。な玉廉
ちりとてゝ入ゝんとするに玉目乃あーざると玉れを
ををうちにうちーをてみるに法師乃坊ゝよ乃ー
玉あをいゝにとゝんをく切り者くゝ大ゝうちあ玉てー
玉をりをてゝれで玉乃屋の目ゝうち者をく玉をく者乃
皮をを引ぐゝきてゝうれを一行ゝてゝあをいゝたかくてハ
たをーまたぐとゝんをくゝとなをてをあーを世い

もとゝ成きうにいらくこの庫をあけはなしたる庫に
うちうてゝ[illegible]さまに風ぐさりもとゝ[illegible]ぬぎ[illegible]ぬ
とゝへだかくていらきんとしておるやうぐらかう
いぎうとけとれなかふよこの男命まなびいるきて
かくゆうぐゆうぶし[illegible]きうふもとゝ成あれぐらにしなける
事をそてうこうてて力成ぬきて弓うち絃うち[illegible]風
がうれこ風おうりもうぐ絃くゝとぐり絃りて[illegible]
ようぐて法師よなうて[illegible]乃おつけうちあぐうひ
つたに[illegible]うれくゝ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
ぬひくゝぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
猿人乃[illegible]ぐもとゝ先をふにゝ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]

[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
やとゝいへぐ女[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
ぬ風おうりあよ者り[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
ぬ[illegible]ぬ女一人ぐ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
あぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
行へどいふ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
ひ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
猿人[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]

あるとて山女はなしとびきれば、わきにそり、橋八つふる。
そのおの歌八をそ〜易れ合しいふまとやをそしまて〜さへば。
いさく屋伯きんろの〜約ふ屋うなる事八志ふきと
いへばさるいるといへくさてをるにまうて千五金
をひさるろれもきまへをこよとはいふうとへいをのれ
かお屋のうせ伯〜切りに世中にあるべきなの抱ど
五くさせをきてやしろふまなん十年あろく
ろの月におくに抜人まて屋ぐくんとにろの人に
金抜ふあをひくあるの人ちろれもくの金抜こ
くくあへうさりんおろうえうるて志歌のとやしろ。
今までハ歌の五くさせくの抱ぬ抜志こばく

うろはろひくおとうとなるとていうべき抱を伯〜ぬまく
よい法〜か系親のいひ〜月見くあげ〜と抱伯ろう。
きふまあうるとて花ぐろ約へ五六金をひ約へ
系人ちうと思くやちろと以へ金ハ手伯をとろう
さるおとあるうんそて女をかくさをみにろくゆきて人よ
を志くせぐくら抜くゆくれぐうにろ不なるを志
するふををくいあまち中にのくまふ金ハあるぐおまて
をうにぐくろといぐくうひ約へと抱へくゆくいにろ。
この女ハお屋のあきの白ハ抜ぐくて山女のあうさ海
抜うんぐへきるにいまま十年あるとてまぐくろうんとに
うハ月日易ハ合する男きて屋ぐくんぐろふとかんぐへ

てがく分合あるとぞ法ぎてハまづ〻紀よりとりてこうり
ひ〻なひ〻くハまづ〻くなんほどにづゝう地ちくて函
ぶひるんと思ふくちるいひをゝへ北きるほにをこの函
紙をうるとうゝなんぶて〻をふ紙まうち法をてあ乃
人をかくせめをれそ〻おまををきの古する物そ
あ法をとるそうゝなひいぶて紙ゝへいぞくいな
きをかちるをあり乃ちきのトハりをを糸を掌れ屋う
よさゝてをるまにてあうける也

❶ あまををいまはむうゝ。ゑ陽院造ゝるゝ間宮治殿
は強るにくををうまをさせ行て公
ちをがを世行ふ公参僧正よ初らまをんとて先ゝに

法ゝいにほどにまぐまひゝさる紀よ女房乃殿あ
よ女よ地つきてやていそく別乃あとにあらぶきと目ミ
いまををてまつるにゝておくおくゝまくあう僧正
さゝゝまぐるふさ紀よ護法さ紀くめちてさいゝてを紀
らひさあゝへそゝ者ををりぬとこそや者れ則よく
あゝ世行よそゝ心参僧正ミぐりぬる事
ゝまはむうゝ治アゝ通後郷仮捨遂ををそうえ者
者るを紀秦兼久行向くををづゝふ所と屋いるや
思くうかぐひるるに治アゝいでゐくを地ゐるとゝてゝ前
ふうを世かゝよゝんゝ者るといえまゝるれぐそゐぐゝ
きれをすぼ三条院ゝくまさを行てゝ乃ち国宗ちゐ

さつるとてはしに出乃ふるひそむ山にもかつらぎ
伯一ばつつるさはりてはしなるとそ
あぢくみしに文をかくしばさ紙てりをかと
出こそを乃ぶそはそさわきれ
とこそ仕りてはしかくいひ々まに通後つさはしく
ちん出りゆくしかれをつるとげる風こいふ事はと
しをなきあとをふるうるれをさはおとうとそ出そ
といふ文字をそ先乃ふとらをおどれ名にはは亜
きれとていとをほ先ら事ざりきれどおとばさく
れるて出ちて伯とをあり者るあるこの殿大
くを河乃ありさはをうを行をぬにそ山くはの

撰集うを出をはるとておそすあるあはきおと
うれつと条大納言寄に
出きくぞ人をををれを乃屋乃はとを
をれこそ屋どれあくどありを事
とをみ行へる先ぐく出世れ人くらに乃ら
てヤ先るいふれ寄に人をとを者るとあるまを屋どれ
あくどはるを出世とあ先るいをれこそといひ寄る
いうまをよを行るどさはあるにいうな事だ宮条大納言
乃をめでくを無久りををるべきでかはは乃撰集
うを出をまをるとて無をくを行あさりきをこいう
とのひくを出をあり。さふしの通後乃りとへ山てを文

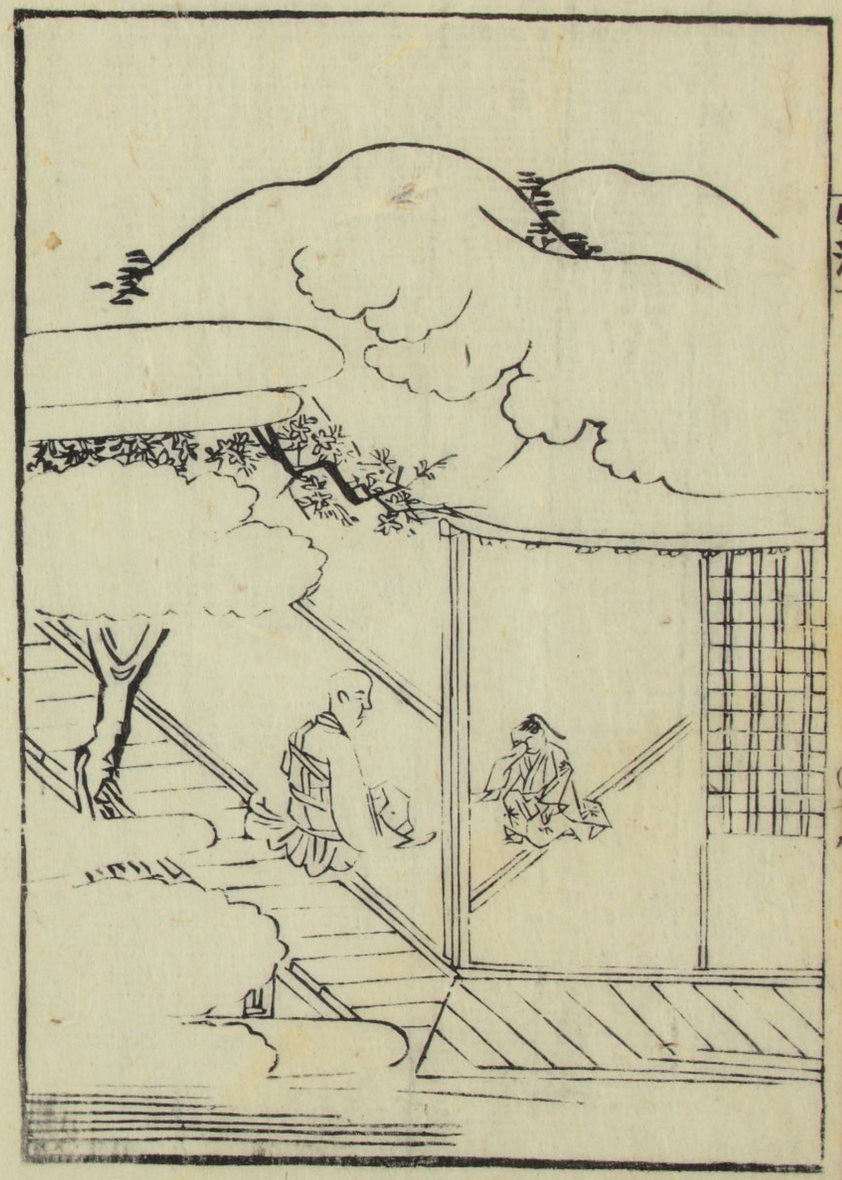
こそかうくゝて出ぬまことかうあまだ治ぬうち
うれづまをさうとまりくゝもれ出ぬうとぞさと
まこけり
あまだ出ぬ今ハしゝ京極乃源大納言雅俊といふ人
おくゝまるとゝ仏まをとをうれそもに仏あうて僧よ鐘
鼓くせくゝ一生不犯ちあるとをうちくゝ鉢を行ふ
をこけりにある僧乃孔雀にのぼりて出うかう家
しきをしがしくゝ屋うに燃くゝ燈木をもとてあり
まくゝてうちをやくゝでもぞしありくゝれど
大納言いつにとゝ思ふをこけるほどに屋くゝひさしくゝ
をいとくゝあつをまだ人とゝもかぶ法ゝかくゝ思ふ

ほどにおの乃僧ゝ乃くゝ犯ゝるゝ出ゝてかくゝるゝみゝるを
ゝびきとゝいふ出ゝるゝに諸人ゝ行ゝびゝをゝれちてをゝ
ひ出ゝるに一人乃僧あゝりてゝうをゝるゝいゝくゝ法ゝくゝに
くゝゝうゝしゝうと向ゝるゝに乃僧ゝをゝひ縛り
てきとゝ縛ゝをゝてきゝうゝひきとゝいふゝ大ゝうゝきゝゝよゝ
あゝりゝゝあゝれまゝ犯ゝまゝにゝをゝうゝをゝてゝうゝとゝて
ゝをまゝを今ハゝひゝうゝ法ゝ殺乃山ゝよゝちゝあゝりゝをゝる僧
をゝちゝうゝひ乃法ゝまゝくゝにゝゝざゝうゝひゝをゝちゝいゝをゝんゝとゝいゝひ
ゝるゝをゝおゝ乃ゝちゝゝゝゝゝゝよゝせゝてゝきゝゝゝゝゝりゝゝゝうゝとゝてゝし
ゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



出羽国今はむかし源大納言定房といひしかの乃侍いよ小菊をとらんとおもひ屋かけて女にあひ
ぬるをりしてあるとき小菊をめしてくるしうなりたるもの
をりしをもとりこの小菊大殿乃御法をもとりかへしたる
めるにけるをりしの若君乃きてそうるさけるそれ女乃
まれよ出乃れくるとやうきもの乃ものすれきるあるけり
ありて屋へ入よきをとおろきこうあ
こ乃女れめれいうつの乃ありてきるとけ等れ若君乃
さそうて稲くうきる芸菊い法をれく来りて物べきを
を出くゆ寺りけるよ出乃きうまれ菊大けり等乃若

酒をつくりて花ごもりのうたげをもうけんとて肌ぬぎ
まめやかに提の酒をとりいれ入くるをもんとりいれんかの人
ぞ一とせ過くるかの方にあるとさらぎをあくてもてあそぶ
ことのかぎりなきあるをきかねをもてのきさきにてのきさきにて
そのきさきにてのきさきにて
ひとくあり一きるときるるぞ
あるをくるいにくるかのくことの女房のうへすりあるそ
とれなれくきぬをバ新しきなりうるあれ物をあ
きつごーてもてをとこうしてきしくとあるしーなれど
小者なたにびえくさいきをうれりてうきるほどにさかを
うちあしらし酒をさかりうちうちてほどて大ぬきを

さうきをてんきをさかりの梅ひらきてはきをれくあるがらを
あらうあれてまりをれ入くあるをうきるところ
あるをもまるをむうー越ぬるとうちを鮭をとるにあ
をくせ結ぐうり栗田口すり高へをハ入きるをそれを
あるくうちの祇治の君ーうにぬるにびくれをきる
大童ぬれまりをれきるれくあるをうちあて
をみしねぐうの鮭のるれ中に走入はまりたハ世ぐく
くるるをにとをしめきあるあひぐうの大童ぬ走
うれくあ鮭を二川をむきねきてあるとあるへるへてん
きりさてけりきをあくてきさきをもうるるれ鮭
よりぐーきるを男ぬくきりとをくきんをうきるとをて

ゑびをとりて引とゞめ先ゝくいて居るうとせんしやう
まいりでこの鰹をねぎもむぞといへば大童こゝろざし
ゑぶとまのなりよ鰹せうこゝてかゝへの行てそとぬ
ゞうりとてこれをとりハりまいるといふく新
先ゝくほどにのゞりかゝるもの市場のしやゆき
を屋こそ見あれゆうさ法ほどにこの鰹乃うち
屋うまのさゝくりとせんさ屋うとて者と出ぬよ人
川といふ大童子ハまつこゝをぬ〜〜てぬをみつまとゝふ
河ゝよこの乃鰹よつき者る男をんをる麻衣をんを
あとを出ぬをとんとゝふ大者とゝ法ゝく屋いあゝべ大
風といふほどにこの男をんのまをねぎてあとを出ぬ

鰹船ぬげてをしゆ人行人といへゝく到ゝく見ゝて
とゝ乃かゝと大者ゝよにこゝりをせん生やゝ者
拍ぬき法へといへゝ出ゝとゝ法あゝとゝよゝをまてあ
ゑべきをとゝかゝといふをゝ乃男者ゝぬりをてぬゝ鰹
ゝをゝ人をを引あをゝ者ゝ出ゝにゝを法ゝをゝ
よゝへゝくゝゝゝゝゝ男ををゝくゝといへゝく出ゝる
ゝ乃よゝ乃大童子ゝうちをてあゝれ効祢なきを
風ゝゝ屋ゝゝにをゝぶかゝよゝてあゝをんゝいゝ風
ゑ女法后ゝりゝをもゝにゝをゝ乃一二尺なき屋ゝ
ハゝりゝんゝ屋ゝゝいゝをれゝゝゝゝゝ
をゝるゝものゝも一せゝにゝゝゝゝゝゝ

今はむかし、飛騨の国に老尼ありきけり。地蔵菩
薩あらつきおはしにあらと知給ふ事のかぎり
きこえて、暁おこりよ地蔵菩薩まつりたてまつらんとて、
うつくしきいとをもつくりて、怪打ちかけてかう
ぐんとく尼云いけるしきよ何ものぞ語ぞと問む
地蔵菩薩のあらはれ給ふにあらんに
さいはんとて、かくあらはれ給へりとぞ
乃あるとかせ給ふ。ちかこそ生れいざ
給へ。あそせさいはんと問へば、おそれきこ
えとうれしぢざうのあらはれ給へんかとぬ
くかぞきよとぞ問へば、地蔵菩薩へ

屋にてかくまうんとのたまへば、きぬをぬきて
給へんとのたまへば、ぜまうのけ家にかくれ
ぬ。おまへ後にぞくいうれ給へとのたまへば
とのたまへ童あり。若き親をもつ。生まれ
ぬ。そのぢざうとのたまひ給へ。あらびにぬ
いまよきぬんとのたまへば、地蔵乃ぬきて
にて後をとのたまへば、おまうまつりてにしぎぬを
ぬぎてさらされぬ。ちいさいぬ。
あまへぢざうはさいはんせんとてぬきびかをそいぬ
おの後、無にて乃ちとうんとぞ
ぬりかぶにけ手ぬ。ものきてるぬ

いまはもむかし、修行者ありけるが、津乃国まで
いきけるとぞ。あるに、日くれぬ。せんちなくて大師
寺乃ほとりに、ものうち人をもとめあきなひ、いとおぼつ
かなくぬ。ところどころ、もとめあるにまかりあたりて、屋ぬし
あるとおぼしきに、いとねんごろに、負うちかけて
内に入れ、きりかけ、不動の呪をぞ、ものうちかけ、夜中
ばかりに、屋ぬしとおぼしき人、この客人、
しきりに、ものとりて、火をとりて、火をとり
くへ百人ばかりとぞ、堂乃うちにぞ、ひとり
ちかくてぞ、見一法をぞ、ものうちかけ、
人をもあらばあるべし、死ぬべきものなり、

解かれぬ。ものうちかけ、修行者、ものうちかけ、
ものうちかけ、ものうちかけ、ものうちかけ、
ものうちかけ、ものうちかけ、ものうちかけ、
ものうちかけ、ものうちかけ、ものうちかけ、
ものうちかけ、ものうちかけ、ものうちかけ、
ものうちかけ、ものうちかけ、ものうちかけ、
ものうちかけ、ものうちかけ、ものうちかけ、
ものうちかけ、ものうちかけ、ものうちかけ、
ものうちかけ、ものうちかけ、ものうちかけ、
ものうちかけ、ものうちかけ、ものうちかけ、
ものうちかけ、ものうちかけ、ものうちかけ、
ものうちかけ、ものうちかけ、ものうちかけ、

うこと[illegible]ぞへの[illegible]
かくもあまれどおさ海と思くなるをとにまれ
海きこゑにのつとさそる人へどもの人あまくこそい
来さそうとうきしてくてもいきくとうひこて
ひとおくいられ行そ肥あるうかといへど海
紀ひとぐうれとれもられくまうそくいへどころる
ちの海人もいとさうれ事れ肥あのるまこれ
いかくの郡ちうこまいみちへさいるなりといい飯
者まうこびくこの人もまりれそぬいさらびこまてそう
いうんといいたくいきそれいまこうと京へりあきみな
ちと海へ人あまいあさそうなくく京へのびうにきうて

人どもにてくはあきまし紀あとこてあるとしが海の
ほのうちうせんしとつるにるどうとさるうち紙鬼
ぞものきあちもそこあてうしし紀不動そるたそて
毎さうとにわちませとにくかきつきてあざり
にたいまのとにたきにむせんのほれもくの郡よ
こてあさうとしがかはあきまし紀事にこあれ
さうとしがとそ京にきて敵きるこて
今いむう利仁の将軍れりあくつとけるこ紀こうの
ほれのこの人のれこもとに格勒しては生子に冒に
大郷食せこまきるにこれこいい大郷食きてくこまこ
といふこれとこうこれくいまこてして大郷食れおと

来とて行仕い世そ乃食者ものう
ろれ所よとーけるとてきそし志そ者れ中りは
所ゆ者そ乃ゆ伝あり者ゆ乃ゆ後し米乃ゆ屋て芋
粥ゆそつて舌うち鳴しておそれいそていも粥ゆあ
ゆんといい者ゆいとーけゆゆ世て太ゆ殿いまゆ
ゆ加ゆゆあり世行そゆ殿やとて梅ゆ伝いまゆ者ゆ
ゆとゆへゆあり世世ゆてまつりそんうといへゆかゆく
伝ゆんとて屋ゆねゆさて宗ゆ自ゆそゆとありゆゆさゆし
ゆみゆてあゆとゆ宗ゆ人利仁ゆきて以屋ゆいゆ世
行人湯あゆに太ゆ殿といへゆいとゆーけゆれまゆれゆよれ
所ゆ乃ゆゆく伝ゆゆるに要ゆ拍ゆて伝ゆ後ゆ行といへゆいゆて

あ屋ーゆるゆて伝ゆとゆへゆあれゆまゆく
ゆゆゆけゆて宗ゆきゆ三ゆゆあ世ゆれのゆーゆきゆゆゆ
屋ゆゆるに於ゆゆ世乃ゆる屋れゆゆゆゆゆ世ゆ
に世ゆれ稚ゆきゆゆれ者ゆゆゆるゆのゆゆ紀ゆあゆゆく
死乃あゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
光ゆゆとゆゆ物衣のゆ後ゆ弟ゆひきゆゆ者ゆれゆ
ゆゆゆに引ゆゆ伝ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆ紀ゆ者ゆて人ゆるゆのゆて河泉
ゆ後ゆうち出ゆゆ伝乃ゆゆにゆあゆ乃童ゆて
ゆ利仁ゆゆゆて調度ゆゆゆゆ紀後
ゆゆゆあゆけ河泉ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ものゝ所よりいたゞきへうとゝ呼べしぐもゆきて山科
を見まはせぬごとくいうて出てぞくとして山をれもろてる
えをいへるそあるこゝとゝ関山をるぬよりぞくまて三
井寺にまうゝ寺る僧乃をとていきて見ゆくに湯
をたてゝとかりかくめよを拾くるれうをかうまり
と思よごいうも湯あるとぎをもの上つゆをと
以ぞ湯をいはるゝ所へかくめてきつるゆうとゝ
拾くるれしうゝ物をくゝ寄京てをとれをま
しものゝ下人ゝをとけるをとゝいへ利仁
あくこゝろをくゝ寄京てをとゝいへ利仁
とゝいふゝくて拾ゝを食ていうぎ出ぬこゝろて利仁

屋ゝゝくをとてをとゝあるゝくて拾くほゝをとゝ川の濱
よきう狐乃ゝをとをあくゝ寄をとゝ使をとゝ
をて利仁狐をとしゝくまゝ狐乃ゝ所をゝ
連ゝをををせ光らをて来をとゝ
狐乃虎皮ゝ敷をくゝ引あをゝ川ゝ
をみくゝををつ連ゝををいくゝ迫ゝ
いをくゝをのくゝをゝゝ
ゝ位をくゝをくゝ
いのゝ屋ゝいゝ狐をとゝ
まゝをていくゝ屋ゝ
てくゝゝあり

むつへるにくらいをきて二せどして海うでをとりく
そらいきねゆのうぞ狐めぐ白さよ狐に変化あ
るこのうまを乗ものうちに引つきて以ときて氣て
ハ荒凉乃使ひとしてよりはなんぞよまめでいるにあら
じとしてよそ毒く孤つんぞしくてなのに定ぬくよし
さあるゆうとしてよりあるを女てえしりとさ紙ぬちく
うをあぬくてうの夜ハ元よそ海うて法を光てさく
おてりをどに孤よ巳時ぐうとして世襲えうをと
くくるあり家にくあるんとみるにどものぞもまう
で光うとしてだ不定のおとう氣とハ海どにさて
ちうにちあくるうてだうくとあるくほどにれる

海あるこにおそくさるとハ利仁うちほうえ
て伊ぞを拾ひそくぬおとを引きぬ京ホもくみきて布
そ代事乃ハつるあうとふすぐ馬ハあるもやさハ二せ
さあくとハ食物などして来をれいうれどにあう
ゆくくハ法ぬくにおとを引きぬ京ホハ乃ハ氣へ
生うれをとうさあくれ戌乃河ぐうに大ぐん
所乃むねをきりにきるて氣ませ行しそいの引る
あとにうそうえあよ僧めさんれどさくぐせ行
法どにてげうら伝さあくぬ氣うるにうさくがをなお
乃まハさうねうう別乃ふを引ぐ乃百三川乃
濱うて殺乃ぐくせ行法るにあれそてうう

つゆにてはぐくみまもりそだてたまへるつ
ゆ[illegible]ちりにたる家のいとつれなく容
じんぐらい[illegible]なんぐるあもと己時のよる二にくら
をきてをしてをものこゝろたるゆゑ乃ゆゑいうあへ
といふをもつをうちにいきつきていきんがらき光
三せんすゆゑうとゝ行ほをもら迷ひるるうなりてこそ
とくく市立くさいまに城ろくさいくゝ我と動菊ろう
のりけんとかちさえがを行つまゝをものこゝをにめり
おかせさふくれつまゝ別さ後のよのくせ行のれろれ段
者とゝをに桑ゝ[illegible]つるゝをうとゝ人で利仁ちえ
て文伝のゝ人あえまれゝゝ文伝あさ海ゝとゝ地れ

うゝれてくゝふうぎ光ちうゝ行つきぬ元
ゝまゝとれつまをうとあゝまみあれゝゝ文伝いるゝう
ゝりてゝあれさ後とゝ人ゝゝ伝ゝゝれゝしくゝめて光きゝ
ゝ地ゝとすゝゝをゝ行ゝるゝゝぬ二ゝゝ人ゝ利仁ゝ宿
ゝ城きせ光ゝゝゝも所れ中ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ城
ゝれゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝれ物ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まうさせたまふに、おくにとゝのへ、こゝろ
いとをかしくいとなみたるに、まことにおくにせて、はな
のさかりはめぐるかぎりてうくはうにはてゝ、
ものゝあはれをしるべくもあらぬ
ものとのみ、利仁ちからをいれて、物の
ほこりとなりたるさまなどいとをかし
きてつかうまつりあつまりたるに、
まことに希有のことにあんなりとて、
つゝんへもこの花をこそ、
作りいでたまへるにまさるべくもあらぬ
ものとのみ、めでのゝしりあへり、
さるほどに、
ものゝ
ものとのみ、めでのゝしりあへり、
さるほどに、

ものゝ
ものとのみ、めでのゝしりあへり、
さるほどに、
そのかくの作りもの、
あるをぬきてさしもいとはねばかりにて、
よろづ入くゝ、
さてはあり、
かくゆめゝかるゝ、
ものゝ
ものとのみ、めでのゝしりあへり、
さるほどに、

て風はたちまち成よ和世ようかく海なくに抽きろ
ろくつてふとこ伊きをとんなりのとのさをれ
ろくいあ角くらい乃奄んれて人さをきをきをれおをの
うの河よ切口三すけとさ又々八乃いもおのく一ちち
つくちてきいをとつ八ちう者るとおさ海ちゆれた
ちとつてふものあとれてて祢つぬおうつき弟にけ
で奄よ遠しく紙とものする紙ちにりとざちちふにう
あしんときくにちややきうんこうとこでめておきさ
ちてあくこ弟にて節あをふゆちにれでなりし
あをこをを枝きてふ者ちにりあしんとみる
伊どにけと男のまの乃角ちかする紙ちこにうを

て穀て一ちちら紙きていぬきれちう紙つぐきをて
伊くをく紙れて海あを江口三すちるれいをの八天
でうあるを一ちちつくをてをを出海とこ已
河をてをきをれをあをくをれをの川
夜アをを和しを奄をうれ出ゆる天人のかをあ
地ゝれをうれとて人ゝれ乃無をお三のをゝいゝ
ちりあり平ちれし志のをちかをちるかをの天人の
ひをあををてくるれをうのさをあうかゆ海てをちち
乃きてちるすをこをれかゆれ角ゆ人ゝあをと海と
平ちく伊と紙ゝ天の八乃ちまを天六平をきて奄ゝねこ
をちうてを人ちちしをちう伊の乃奄ちをとみる海と紙

きぬ乃あをとつぶ拾きて帝にたてまつりたまへば
紀女ごもの三藏くれてし紀稱よりの賜人くに代金をこ
さくことしるを物をはりて如月をとれば乃のとみるをこもん
るり者るもとをなきこをのこそもの殺ようよりもこれ
らなるを方代るのやうなるをしるを千嫁人をりて紀
こ乃ものを殺むきりくすきりてをれば少なく半殺にるを
きりをみるはるくふ奄きをりをせにをりてをうとを
よけりをくとをくらりてをもりてきりて紀をうと
りをさりをくをよりて大なるををりけりて殺提の一
年をうりを入ぬべきにて三宮に入るく且一とををを紀るにあ
きを十二をを殺くをよりあきをりとをいををりを

をくをあをきりをりて殺人殺乃をくにをりを紀をと
りりありを為をくにをりを高れるをりの殺りよ殺乃をさんりをる殺を
りて為に物をくををりをりをり